

早く気づいて！心の病気

—3月は自殺対策強化月間です—

あなたやあなたの身近な人に、いつもと違う様子はありませんか？

1、あなたと、大切な人の命を守るために、以下のような変化に気づきましょう



2、もし、自分自身や身近な人の様子が「いつもと違うな」と感じたら・・・

自分自身ができること
⇒誰かに話してみましょう

周りの身近な人たちができること
⇒「どうしたの？」と声をかけてみましょう

3、専門医や専門機関へ、相談しましょう

まずは家族や周囲の人たちが
相談してみましょう

「心やからだが疲れているようだから」など、
本人が受け入れやすい言葉で受診を勧めましょう

国東市では自殺予防の対策として、市民健康課窓口でのポケットティッシュ配布や、公用車のマグネットシート、公共機関のポスター掲示などにより、広報活動に取り組んでいます。



◀公用車の
マグネットシート

4月から 予防接種の実施体制が全て「個別接種」へ移行します

これまで国東市が実施する定期予防接種は、一部各保健(福祉)センターや学校で行う「集団接種」でした。しかし、昨年4月に判明した有効期限切れ麻しん風しん混合ワクチン接種事故を受け、今後の予防接種の実施体制について検討を重ねてきたところです。

事故後は、臨時的に市内協力医療機関等で「個別接種」していただいていたりましたが、本年4月以降については、全て「個別接種」で実施していくこととなりました。

これまでご迷惑をおかけした方々にはお詫び申し上げますと共に、今後の予防接種の実施体制につきましてご理解いただきますようお願いいたします。

問 い 合 せ

国見総合支所 地域市民健康課 ☎ 0978-82-1112 武蔵保健福祉センター ☎ 0978-68-1184
国東保健センター ☎ 0978-73-2450 安岐総合支所 地域市民健康課 ☎ 0978-67-1114

スポットライト

「なの実会」声の市報

「なの実会」は、市内の視覚障がい者の方へ「声の市報」を届けるボランティアグループです。2月11日の午後、録音の様子取材させていただきました。



◆市報全ページを90分に

「立春を過ぎたというのに、真冬のような毎日が続いています。お変わりございませんか？それでは声の市報2月号をお届けします。表紙は消防団出初式の写真です。団員みなさんが一斉に放水訓練をしています。季節のあいさつで始まった読み上げは、表紙写真の説明へと続きます。

「なの実会」のみなさんは、「市報くにさき」を読み上げる活動を、なんと36年間も続けています。結成当初は旧国東町の広報紙の読み上げを7人で始めましたが、現在は椎原ミツ子さん(78)、郷司三千代さん(73)、溝部清子さん(69)の3人になりました。毎月10日頃、国東町鶴川の椎原さん宅に集まり、ページの分担を決めるとカセットテープを回します。

「市報くにさき」2月号は表紙を含め28ページ。新庁舎建設の基本設計や行政情報、まちの話題や暮らしの情報コーナーなどさまざまな記事を、ゆつくりとあたたかみのある口調で語ります。参加した子どもの写真が載っています。かわいい笑顔ですね」と時々感想も加えます。おくやみ欄に掲載された方は、住所や年齢もすべて読み上げました。



で録音は終了です。緊張の糸がほぐれた3人は、あたたかいお茶を美味しくそくに飲み干しました。

◆協力者を募集

録音されたテープは、椎原さんがダビングをして二本そろえます。一本は国東町内、もう一本は安岐町内の方へ、社会福祉協議会のホームヘルパーを通じて届けられます。現在利用者は6人。感謝の言葉とともに今回は声の調子が違ったみたいですが、風邪をひかれたのですか？」と気遣いの声もいただくそうです。

昨年11月には、長年にわたる活動が認められ、厚生労働大臣から表彰されました。椎原さんは、「家に居ながらできるボランティアです。誰かがやらないと困る人がいますからね。私たちのように隔々まで市報に目を通す人はなかなかいませんよ」と笑顔で話します。しかし、その一方で「3人になって20年近くになります。高齢でもあるので、若い人の力がほしい」と、活動に協力してくれる方を募集しています。



▲溝部清子さん



▲郷司三千代さん



▲椎原ミツ子さん

問 い 合 せ

国東市ボランティア・市民活動センター
(国東市社会福祉協議会内)
☎ 0978-68-11976